

人名が付いたため池

ため池の中には人の名前が付いたものがあります。ため池築造にその人物が重要な役割を果たしたことが想像されます。今回は香川県三豊市の勝田池と愛媛県東温市の彦八池についてご紹介します。

■勝田五郎兵衛と勝田池（香川県三豊市）

寛文2年（1662）、豊中町（現三豊市）あたりは大干ばつに見舞われました。田はひび割れ、稲は枯死して、ほとんどの土地で収穫は皆無でしたが、明暦3年（1657）に丸亀城下の商人平屋三左衛門がつくった平屋池のおかげで井の口新田 15 町歩だけは豊作でした。これを見て、比地大、笠岡、竹田、下高野の農民は丸亀藩にため池築造を願い出ました。寛文3年に藩から池づくりを命じられた郡奉行勝田五郎兵衛は、平屋池を取り込んで大きな池をつくることにし、農民の協力も得て3年後の寛文6年に完成させました。勝田池の名は勝田五郎兵衛の働きを讃えて、農民が名付けたそうです。勝田池のほりに勝田池之碑が建立されています。<豊中町小学校社会科副読本編集委員会編「豊中のすがた」1992年、高瀬町誌編集委員会編「高瀬町誌」1975年>



■武智彦八と彦八池（愛媛県東温市）

重信町（現東温市）拝志地区の上村は、地勢上重信川の水を利用することができないため、水不足に悩んだ地域です。新田が開発された藩政中期以降はますます干ばつ被害が大きくなり、人々は市右衛門谷に池を築く計画を立てました。しかし、この谷には人家、地蔵、墓地が多くあり、その中でもたたりを恐れて墓地の移転が障害となって築池の計画は頓挫しました。この時、組頭の彦八は「近年の旱害見るにしのびず。われ墓を岡野山に移転する故、お上へ進達せられたい。」と庄屋に申し出て、一人で墓も骨もひとつ残らず運びました。池の築造は文化4年（1807）に始められ、彦八の義挙を伝え聞いた代官は郡から1,700人の人夫を加勢させ、さらに1,000人を追加して竣工させました。村人は池を彦八池と名付け、今も彦八の偉業に感謝して供養が続けられています。<わたしたちの東温編集委員編「わたしたちの東温」2014年、重信町誌編纂委員会編「重信町誌」1988年>

